

令和元年度 上河内西小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

自立（ひとりで）	共生（なかよく）	逞しさ（たくましく）
・ 自ら進んで学べる子 ・ 自ら考え解決できる子 ・ 自信をもって行動できる子	・ 人とつながり共に生きる ・ 喜びを感じる子 ・ 思いやりがある子 ・ みんなのために働く子	・ 進んで運動し、活力のある子 ・ 最後まで粘り強く取り組む子 ・ 偏食をせず、健康な体をつくる子

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

学校は子供たちの学びを保障し、成長を促すところである。子供たちが、授業の中で、「わかった」「できた」と達成感が味わえる学習が行われ、「もっと学びたい・できるようになりたい」と主体的に学ぶ意欲が高まる学びのある学校づくりを目指す。また、子供たちの育成には学校が家庭や地域と連携・協力し一体となって取り組んでいくことが肝要であるため、地域と一体となって子供たちを育む「地域とともにある学校づくり」を推進し、学校教育目標の具現化を目指す。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- （１）学校経営の中核に心豊かな子供の育成を位置付け、活気に満ちた学校を築く。
- （２）確かな学力の定着・向上を目指し、基礎・基本の確実な習得を図るとともに、主体的・対話的で深い学びを実現する。
- （３）自らの目標に粘り強く挑戦する心と健やかな体を育む教育活動の充実を図る。
- （４）「小中一貫教育と上河内地域学校園」及び地域協議会の充実に努め、家庭や地域社会の信頼に応える「地域とともにある学校づくり」を推進する。
- （５）教育公務員としての使命を自覚し、和と協働の精神を大切に、専門職としての力量形成に努める。
- （６）職務の遂行に際しては、チーム対応に努め、勤務時間を意識した働き方を心掛ける。

[上河内地域学校園教育ビジョン]

たくましいゆずっ子の育成

～基本を身に付け、人とのつながり、夢に向かって生きる子どもを育てよう～

4 教育課程編成の方針

- （１）編成にあたっては、日本国憲法、教育基本法、学校教育法、学校教育法施行規則及び小学校学習指導要領等の法令、並びに栃木県教育委員会の方針、宇都宮市教育委員会の「第２次宇都宮市学校教育推進計画」「第２次宇都宮市学校教育スタンダード」「平成３１年度指導の重点」の示すところに従い、公教育の立場を堅持した教育課程を編成する。
なお、小学校学習指導要領については、小学校学習指導要領第１章第１の教育課程編成の一般方針、第３の授業時数等の取扱い及び第４の指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項の規定を踏まえ、その趣旨の実現を図るものとする。併せて、2020年度から完全実施となる新学習指導要領へのより円滑な移行も視野に入れながら、教育課程を編成する。
- （２）学校教育目標・学校経営計画を理解し、学校の実態（施設・設備・教職員の組織等）、地域社会や児童の実態、保護者や教職員の願いや期待を考慮した上で、豊かな人間性と創造性を身に付けた児童の育成を目指した編成をする。
- （３）各教科・道徳・会話科（ことばの時間・英会話の時間）・総合的な学習の時間・特別活動におけるそれぞれの目標や特質、指導内容の趣旨を踏まえ、適切な工夫や見直しを加えながら、本市の小中一貫教育カリキュラムに示された年間授業時数を確保できるような編成をする。
- （４）児童に生きる力を育むことを目指し、学校の創意工夫を生かした特色ある教育活動が展開できるような編成をする。
- （５）より確かな児童理解に基づいて、「楽しく分かる授業」「個に応じた指導」を展開し、基礎・基本の確実な定着を図るような編成をすること。
- （６）道徳教育の理念を尊重し、全教育活動を通して、未来を拓く主体性のある日本人としての道徳性の基盤を養うことのできるような編成をする。
- （７）年間授業時数は、３５週（１年生は３４週）以上にわたって行うよう編成し、週当たりの授業時数が、児童の負担過重にならないよう工夫する。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】
「学びがあり、仲間がいて楽しい学校、子供を学ばせてよかったと思える学校づくり」に努め、和と協働の精神を大切にした教職員集団の確立と、家庭や地域社会の信頼に応える「地域とともにある学校づくり」の実現とを目指す。
【学 習 指 導】
○学業指導の徹底を通した学びに向かう集団の形成
○基礎学力の向上と家庭学習の充実
・対話的で深い学びの実現を目指した言語活動の充実と図書館教育の継続
【児 童 生 徒 指 導】
・確かな児童理解に基づいた多様な児童の状況に応じた指導の充実
○基本的な生活習慣を身に付け、ルールを守って行動する児童の育成（あいさつ・適切な言葉使い）
・学級経営や特別活動を基盤としたお互いのよさを認め合うことのできる児童の育成
【健康（体力・保健・食・安全）】
・学校行事等を通した体と心のたくましさの涵養
○準備運動の工夫を通した体力（投力・持久力）の向上
・食に関する指導の充実（望ましい食習慣と食事マナーの啓発）
・熱中症予防や危険回避能力の育成など健康・安全指導の充実

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
児童	A 1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 ⇒児童・教職員肯定割合 80%以上	①積極的な児童理解を進めるとともに信頼に基づく人間関係を築く。 ②異年齢集団活動（なかよしタイム、縦割り班清掃、交流給食など）をさらに工夫充実させ、豊かな人間関係を育てる。		【達成状況】 【次年度の方針】
	A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 ⇒各対象者肯定割合 80%以上	①道徳科を中心に自分の気持ちを客観的に捉える活動を基底として、他者の気持ちを想像したり考えたりする機会を充実させる。 ②縦割り班活動や異学年交流活動を充実させ、相手の気持ちを考えて行動できるよう指導する。		【達成状況】 【次年度の方針】
	A 3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 ⇒児童・教職員肯定割合 80%以上	①「上西小徹底したい『5つのあたり前』」のうち、重点的に指導する際は強化週間を設けるなど、教職員と児童が意識的に取り組めるような工夫をする。 ②上西スマイル賞表彰など、きまりやマナーを守っている児童を称賛する場を設け、実践意欲を喚起する。		【達成状況】 【次年度の方針】
	A 4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 ⇒各対象者肯定割合 80%以上	①地域学校園での「あいさつ運動」を活かしながら、日常的なあいさつを奨励する。 ②家庭・地域と連携・協力を図りながら継続的に指導することで意識づけを図る。		【達成状況】 【次年度の方針】

の 姿	A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 ⇒児童・教職員肯定割合 80%以上	①学習や行事等で事前に目標を設定する場を設け、適宜振り返りを行い、自己目標に主体的に取り組んだり、努力したりする児童を称賛する。 ②目標に向かって取り組む姿勢を児童相互が認め合い、励まし合えるよう指導する。	【達成状況】 【次年度の方針】
	A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 ⇒児童・教職員肯定割合 80%以上	①体育や特別活動において健康に関する授業をとおして、日常の健康管理に興味を持たせ、健康的な生活が送れるような態度を育てる。 ②食の大切さについて学級指導を行ったり、栄養士や養護教諭が参画する授業を工夫したりし、栄養バランスを考えた食事についての意識を高める。 ③児童の実態とねらいを明確にした交通安全教室、避難訓練を計画的に実施して、安全な生活を送るための基礎的知識・技能及び考える力を育成する。	【達成状況】 【次年度の方針】
	A 7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 ⇒児童・保護者・教職員肯定割合 80%以上	①宮・未来キャリア教育年間指導計画に基づき、児童が自分の良さや個性を大切にし、集団の中で自分の役割を自覚し行動する意欲や態度を育てる。 ②校内での清掃活動やみどりの日の活動をはじめ校外でのボランティア活動や奉仕活動等で活躍している児童を励まし、賞賛する。	【達成状況】 【次年度の方針】
	A 8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 ⇒児童・教職員肯定割合 80%以上	①外国語活動（英語活動）や異文化に触れる活動を工夫することにより、児童が英語を話す場面を意図的に設定し、自己表現できるよう指導する。 ②教材教具を充実させるとともに、校内研修を活性化させ、教員が互いに授業改善に努め、指導力の向上を図る。	【達成状況】 【次年度の方針】
	A 9 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 ⇒児童・保護者・教職員肯定割合 80%以上	①各学年の各教科、領域等で市内や地域の自然や文化、歴史に関する学習を継続及び開発し、自ら住んでいる地元地域や宇都宮の良さに気付く指導を工夫する。 ②地域や宇都宮市の行事、イベント等の情報を提供し、参加することを促す。	【達成状況】 【次年度の方針】
	A 10 児童は、I C T機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 ⇒児童・保護者・教職員肯定割合 80%以上	①児童が各教科や領域等の授業や行事等で活動内容や目的に応じてI C T機器の適切な使い方を学び、効果的に活用できるよう指導する。 ②授業内容や児童の興味関心、教職員の要望等を考慮して、適正な学校図書館蔵書及び環境整備に努める。 ③学級ごとに図書の貸し出し時間を充分確保するとともに学校長表彰等によりチャレンジ読書を奨励する。	【達成状況】 【次年度の方針】

目 指 す 学 校 の 姿	A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 ⇒児童・保護者・教職員肯定割合 80%以上	①生活科や総合的な学習の時間、行事等において、地域の方や高齢者と触れ合う時間を意図的に設けるとともに、活動を振り返る時間において感謝する心情を育てる。 ②道徳科の授業において、生命や人権を尊重する心や相手を思いやる心などを醸成する。	【達成状況】 【次年度の方針】
	A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 ⇒児童・教職員肯定割合 80%以上	①社会科、理科、生活科、総合的な学習の時間などを軸に環境学習に取り組み、身近な地域の課題に関心を高められるよう指導する。 ②身の周りの自然事象や環境について学習することをとおして、地域を愛する心情を育て、実行する態度を育成する。	【達成状況】 【次年度の方針】
	A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 ⇒教職員肯定割合 85%以上	①児童指導主任や特別支援教育コーディネーターが情報を集約し、全教職員が児童に関する情報交換の場を設け、支援や配慮が要する児童に関する共通理解を図り、組織的に対応する。 ②特別な支援を要する児童の実態や状況に応じて、スクールカウンセラーや関係諸機関と連携を図るなど、チーム学校として機能を生かし、支援及び指導法を充実させる。	【達成状況】 【次年度の方針】
	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 ⇒児童・保護者・教職員肯定割合 85%以上	①「いじめゼロ強調月間」に児童会主催の「えがおいっぱい集会」を行うとともに、いじめゼロポスターの掲示・道徳の時間の充実等により、いじめをしない・させない・許さない気持ちを育てる。 ②定期的な教育相談やいじめアンケート等により、全職員で未然防止・早期発見・早期対応に努める。 ③学校の取り組みについて、保護者へ積極的な情報発信を行う。	【達成状況】 【次年度の方針】
	A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 ⇒児童・保護者・教職員肯定割合 85%以上	①児童の自己有用感や自己肯定感を高められる場になるよう、日々の授業や諸活動で児童が活躍する場面を実現し、相互に認め励ますことができるよう指導する。 ②日々の観察をはじめ、教育相談週間による調査や相談結果、Q U調査等を活用して、不登校の未然防止に努めるとともに児童の変化に対して迅速かつ組織的に対応する。	【達成状況】 【次年度の方針】

A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 ⇒教職員肯定割合 85%以上	①児童指導主任や特別支援教育コーディネーターが情報を集約し、全教職員が外国人児童に関する情報交換の場を設け、支援や配慮が要することの共通理解を図り、組織的に対応する。【A13①再掲】 ②必要に応じて関係機関と連携を図り、支援の充実を図る。	【達成状況】 【次年度の方針】
A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 ⇒各対象者肯定割合 85%以上	①確かな児童理解に基づく積極的な児童理解を進めるとともに信頼に基づく人間関係を築く。 ②異年齢集団活動（なかよしタイム、縦割り班清掃、交流給食など）をさらに工夫充実させ、豊かな人間関係を育てる。	【達成状況】 【次年度の方針】
A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 ⇒児童・保護者・教職員肯定割合 85%以上	①「朝イチタイム」や「パワーアップタイム」等の有効活用を図る。「パワーアップタイム」は実施曜日を固定し、内容を見直す。 ②T・T、少人数指導の指導体制を工夫し、「個に応じた指導」の充実を図る。 ③授業では、めあての提示とふり返りを実施し、学習へ主体的に取り組む態度を育てる。 ④宮っ子ステップアップシートを活用する。	【達成状況】 【次年度の方針】
A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 ⇒教職員肯定割合 80%以上	①教員が養護教諭、かがやきルーム指導員、図書館司書業務嘱託員、学校栄養士業務嘱託員、スクールカウンセラー等と情報を共有しながら教育活動の充実を図る。 ②関係者が協力して取り組めるよう管理職のマネジメント力の向上を図り、学校の組織力を強化する。	【達成状況】 【次年度の方針】
A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 ⇒教職員肯定割合 80%以上	①各自が勤務時間を意識し、長時間労働を削減するために、効率的かつ計画的な業務遂行に努める。 ②学校における働き方改革を推進するため、業務の精選・見直しなどを行う。 ③教職員相互に業務支援を行い、連携しながら課題解決に努める。	【達成状況】 【次年度の方針】
A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 ⇒各対象者肯定割合 80%以上	①小中合同のあいさつ運動を行うことで小中学生の交流を図る。 ②6年生を対象とした中学校訪問を行うことで中学校の様子について学ばせるとともに小中学生の交流を図る。 ③地域学校園内の教職員で、様々な部会を組織し、意見交換をする場を設ける。	【達成状況】 【次年度の方針】

A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 ⇒各対象者肯定割合 80%以上	①授業や学校行事等において、積極的に学校支援ボランティアや地域協議会の活用を図る。 ②ボランティアの適時募集と充実、PTA常置委員会との連携により、教育活動や学習環境の充実を図る。 ③「魅力ある学校づくり地域協議会」において、学校・家庭・地域の連携を深める事業を推進しながら交流の輪を広げる。	【達成状況】 【次年度の方針】
A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 ⇒各対象者肯定割合 80%以上	①授業や学校行事等において、積極的に学校支援ボランティアや地域協議会の活用を図る。【A22①再掲】 ②ボランティアの適時募集と充実、PTA常置委員会との連携により、教育活動や学習環境の充実を図る。【A22②再掲】 ③授業や行事等の内容を吟味して積極的に出前講座を活用し、教育活動の充実を図る。	【達成状況】 【次年度の方針】
A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 ⇒各対象者肯定割合 80%以上	①普段から校舎内外の巡視をするとともに、月1回施設設備の安全点検を実施し、必要な箇所の修繕に迅速に取り組む。 ②火災、地震、竜巻、不審者侵入等避難訓練及び引き渡し訓練等をとおして、緊急時における対応を確認するとともに、危機管理マニュアルの見直しと整備を適宜行う。 ③教職員及び保護者を対象にした心肺蘇生法講習を実施し、AEDの操作や救命法についての訓練を行うとともに、保護者と地域に向けてAED設置と活用についての通知を配付する。	【達成状況】 【次年度の方針】
A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。 【数値指標】	①児童が各教科や領域等の授業や行事等で活動内容や目的に応じてICT機器の適切な使い方を学び、効果的に活用できるよう指導する。【A10①再掲】 ②授業内容や児童の興味関心、教職員の要望等を考慮して、適正な学校図書館蔵書及び環境整備に努める。【A10②再掲】 ③学級ごとに図書の貸し出し時間を充分確保するとともにチャレンジ読書を励行する。【A10③再掲】	【達成状況】 【次年度の方針】
B1 学校は、保護者と協力して教育活動を展開している。 【数値指標】 ⇒教職員・保護者肯定割合 80%以上	①保護者の思いを共感的に受け止め、日常的に連携を図る。 ②両者が協力して取り組めるよう配慮と工夫をする。 ③PTA運営委員会において積極的な情報発信を行う。	【達成状況】 【次年度の方針】

本校の特色・課題等	B2 児童は、正しい言葉づかいをしている。 【数値指標】 ⇒各対象者肯定割合 80%以上	①教職員の共通理解のもと、適切な言葉づかいをする時と場を設定し、定着のための指導を徹底する。 ②PTA活動や地域協議会等で機会を捉えて意見交換を実施し、学校と家庭・地域が連携・協力を図り指導する。	【達成状況】 【次年度の方針】
	B3 児童は、清掃やみどりの日の活動に熱心に取り組んでいる。 【数値目標】 ⇒児童・教職員肯定割合 85%以上	①縦割り班清掃やみどりの日の活動等を通して働く楽しさや喜びを味わわせる。 ②道徳や学級活動において、意欲の向上を図る。	【達成状況】 【次年度の方針】
	B4 児童は、縦割り班の活動などで他の学年の児童と協力して活動している。 【数値目標】 ⇒児童・教職員肯定割合 80%以上	①児童会活動等で縦割り班活動の充実を図る。 ②「なかよしタイム」の実施等、班の自主性を重んじ、異学年児童の交流がさらに深まるような活動や内容を工夫する。	【達成状況】 【次年度の方針】
	B5 児童は家庭学習に対してめあてや見通しをもって取り組み、主体的に学ぼうとする意欲が向上している。 【数値指標】 ⇒児童・教職員肯定割合 80%以上	①児童一人一人が主体的に問題解決的な学習に取り組めるよう工夫する。 ②学校長表彰により家庭学習の奨励を図るとともに、主体的な学習態度の育成を図る。	【達成状況】 【次年度の方針】

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

7 学校関係者評価

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

